

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3390101735		
法人名	有限会社プレム・ダン		
事業所名	グループホーム凜として		
所在地	岡山市中区原尾島4丁目4-19		
自己評価作成日	平成28年3月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成28年3月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

事業所を開設して約1年弱である。会社全体として食事に注意しており、凜としてでは食器にもこだわり出来る限り食事を楽しめるように配慮している。管理者を中心に職員同士が出来るだけ水平の感覚でケアに当たられるように風通しも良くしている。建物は2階建てであるが利用者の日常生活においては特に大きな支障はない。感染症対策にも力を入れており、湿度、温度等にも配慮している。日中は玄関に施錠せず利用者の方を閉じ込めないよう配慮している。併設の小規模多機能事業所とも行き来をして協力している。但し行事等は合同で行ったりしないで、個別にそれぞれの事業所の特性を考えながら実施している。一方で職員のスキルはまだ未だであり、内部、外部を通じた研修等に今後更に力を入れていく必要がある。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

H27. 4月に開設したグループホーム「凜として」は、岡山市内の閑静な住宅地の中にあり、小規模多機能事業所「おかげさん」の同敷地内にある。福祉によく精通しこの業界で活躍している社長はこの他にも、玉野市でグループホームを事業展開している。その社長が在宅で暮らしていた実母の閉じこもり防止の為に、満足・安心して暮らせるようにと願って建てたホームだと聞いている。社長のお母さんを始め、併設の小規模多機能ホームから移行してきた4名から始まり、1か月後には満床になり、現在待機者は数名いる状態と聞く。このホームのコンセプトは「自由に動きやすい空間作り」であり、リビングや居室に不必要な物は置かず圧迫感を感じさせない快適な環境になっている。特養や他のGHを経験してきた男性管理者と計画作成担当者を兼ねる社長そして7名の職員達が一丸となって、ここが利用者にとっての「第二の家庭」に早くしてもらえるように、早く馴染んでもらえるようにとの思いを胸に業務に励んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を持ち話し合いの中で共有し実践に繋げようよう努力しているがまだまだ十分ではないと感じている	5項目の理念をリビングに掲示し、生活しやすい空間、環境作りを目標に、利用者にとっての「第二の家」を目指している。開設してまだ1年目であり、併設の小規模多機能事業所とも連携をしながら、職員も日々のケアに取り組んでいるところである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方々と挨拶を交わしたりゴミステーション清掃で町内の方と交流するようにしている。今後も様々な機会を通じ交流を図る必要がある。	すでに併設の小規模多機能事業所と地域との繋がりが出来ているので、グループホームとしても地域との交流がしやすく、散歩時の近所とのつき合いや町内の祭りを見学する等、出来る範囲で地域の行事にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にも出来るだけ運営推進会議に参加していただき、地域内におけるホームへの存在の理解が高まるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通じて要望、御意見を聞き職員間で共有しサービスの向上に繋げるように努力している。	併設の小規模多機能事業所と合同で運営推進会議を開催しているが、今年度は4月に開設してから3回実施した。町内会副会長、愛育委員、家族等の参加はあるが、現在まで行政からの参加がないので、来年度からは参加要請をし、2ヶ月に1回、開催する予定にしている。	運営推進会議に行政の参加要請をする事も必要だと思うが、まだまだ元気で発言できる利用者もいるので、会議への利用者の参加を検討してみるのも良いと思う。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事や確認したい事は社長を通じて連絡を取っている。	ホーム開設に当たり、市の担当者とは密に連絡を取り合い助言・指導を受けてきた。市の実地指導では人事体制や報告書の様式に関する助言もあった。生保の人が3名おり、ケアプラン関係等も相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の自由な生活が確保されるよう、日中は玄関の施錠せず解放感を持って頂きスタッフ間の話し合いを行い身体拘束をしないケアを行っている。	安全確保の為、夜間は玄関の施錠はしているが、日中は自由に出入りできる。外に出てしまう人もいるが、職員が見守りながら付き添っている。身体拘束・虐待・スピーチロック等の研修をして職員間で意識を持ち、身体拘束をしないケアを心がけている。	職員間で研修をしているので、何が拘束にあたるのか職員はよく理解していると思うが、外に出てしまう人は「何故外に出たいのか」その要因分析をして、個々に合ったケアの対策を話し合っただけで欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の研修やミーティングを行い出来る限り不適切ケアを無くし虐待防止に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人については制度を活用している方が居られます。職員にとっては良い学びの機会になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の方や家族の方との契約の際には出来る限り不安や疑問点を聞きそれについて理解、納得をして頂けるよう説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の面会時等、意見や提案を聞く機会を設け普段の生活の様子をお伝えしている必要に応じてミーティング等での話し合いも反映させている	運営推進会議には家族の代表の参加があり、家族の意見を聞く機会がある。面会時にはよく話し合うようにしており、家族から要望があった事は職員ミーティングで共有し、利用者・家族と信頼関係を築く努力をしている。家族へのお便りを計画中と聞いている。	家族へお便り等の状況報告をする時に合わせて、字が書ける利用者には手紙を書いてもらい、難しい人にはその人の言葉を職員が代筆して、家族に出させてあげると双方に喜ばれると思うので検討してみたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにて意見交換や提案を聞く機会を設け反映させている。また社長、管理者等適宜必要に応じて意見交換を行っている	月1回職員ミーティングをして、ケアカンファレンスや業務について意見交換をしているが、常日頃から「自分で考える」という言葉を社長から職員に対してかけている。職員は毎日の申し送り等で情報の共有をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得等による手当等独自のシステムがあり向上心が持てるように整備されている。介護職員処遇改善手当も評価システムも導入し支給している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に対し認知症介護実践者研修の受講や研修などの参加を促し資質の向上に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が行っている。他所より得た情報を事業所にて参考にし場合により取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談を関係づくりの第一歩と考えている。入所後は安心して生活していただけるよう関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の相談時より、家族の方の困りごとや不安、要望を丁寧に伺うようにつとめている。入所後もコミュニケーションを図り信頼関係の構築につとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネ等からの情報収集を行い家族が困っていることや不安に耳を傾けサービス内容の説明を行いながら支援内容の確認をして頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の本来の仕事は業務ではなく利用者に寄り添う事であり、一緒に活動したり一緒に過ごす時間を増やすよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族と一緒に過ごす環境づくりを行い、職員とも談笑したりして過ごせる環境づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の確認の上、知人等が来られた時等は一緒に過ごせる環境をつつたり、家族様と一緒に馴染みの場所へ行かれたりされる支援にも努めている。	併設の小規模多機能事業所からの移行の人も多く、職員の家族も入居しているので、馴染みの関係がすでに出来ている例もある。以前から行っていた美容院へ家族と行く人や法事に参加する人もいて、個々の馴染みの人や場所との継続の支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事や日々の活動を一緒に出来る環境を提供したり利用者間の相性を把握し状況に応じて職員が介入し利用者の相互関係が良好になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移っても御家族の希望があれば出来る限りサポートするように努めている。また御家族の状況変化に応じ転居等の支援も行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で希望や意向が聞けるような声掛けをしている。言葉で難しい時は様子、態度、等で観察し意向を把握するようにしている	入所時に「ここでどんなふうに生きたいか、過ごしたいか」等その人の願いや想いを聞き取りしている記録があり、プランにもあげて精神的なサポートをしている。中にはここへ仕事に来ていると思っている人もいますので、その人に合わせた役割を持ってもらうことにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族、本人より情報を集めたり生活歴を聞いたり前入居されていた施設職員に情報を得るように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活を共にすることで現状の把握に努めている。また申し送り、ミーティング等で状況の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング等での話し合いを元に介護計画やモニタリングを行っている。本人や家族の希望や思いを取り入れ反映した計画づくりに努めている	本人・家族の意向を基に、利用者の各担当者が中心となり職員間で話し合いプランを作成している。日々の職員の気づきや介護記録を参考にモニタリングをして、課題や状態の変化があれば随時、プランを検討・見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録やスタッフ間が共有できる申し送り簿を活用し出勤時には目を通すようにしている。また変更がある場合は申し送り等で報告している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り個々のニーズに合わせた支援を行うように努めている。気候が良い日などは散歩等出かけ喜ばれている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公園に散歩したり、時にドライブ等の外出も行い楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診を行い、変調時には主治医に報告、連絡を行い、必要に応じ受診を行っている。	9名全員協力医が主治医であり、2週間に1回往診がある。他科受診が必要な場合、家族が付き添えない時には職員が同行している。訪問歯科も随時対応してくれ、職員に看護師を配置しているので日頃の健康管理が出来ていて安心できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週二日の看護師出勤日に情報提供を行う。気になる事柄や情報についてはその都度連絡を取り必要に応じ主治医に連絡する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所されて未だ入院された方はおられません。もし入院されても看護師とソーシャルワーカーと連携を取り早期に退院出来るように努めます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期においてはホームで出来る事を家族に説明しており方針も伝えている。ターミナルケアについては御家族と話し臨機応変に対応している。	開設してまだ1年であり、ホームでの看取りや現在ターミナルの人はいない。本人・家族の希望があれば、「重度化した場合における対応に係る指針」に則り、協力医と相談しながら出来る限り支援していく考えである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング等での対応の確認やマニュアルに則して行動するようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し誘導の仕方、避難場所の確認をしているがまだまだ回数を増やし身につける必要がある。	年3回避難訓練を実施し、第1回目は職員のみのも擬訓練をし、2回目は初期消火・消防への通報等の訓練をした。ホームは2階建てであり、避難経路は階段を使って玄関から外に出て、歩行困難者は車椅子を使用して職員・利用者共に近くの公園へ避難した。	避難訓練を定期的に行っているため、年1回くらいは消防署に来てもらい立ち会いの下での訓練をしてみようか？ホームの利用者の状態や避難経路を把握してもらおう良い機会だと思う。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別の対応を心がけ、言葉がけ、声の大きさ、言葉使いに注意するようにしているがまだ反省する点はある。	ポータブルトイレは夜間使用のみだが、日中はシートで覆って部屋の隅に置いている。排泄介助をする時は耳元でそっと声かけをし、トイレ座位の後は職員が外に出る等の配慮をしている。職員の言葉遣いが気になる時は社長や管理者が注意喚起を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるようになるべく思いを聞き支援するようにつとめている。自己決定が困難な方には安心や安楽を考え支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に生活支援に努めているが職員のペースや都合になっている場面もあり反省点もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を導入している。また日頃身だしなみについては常に気にかけて支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューの提示により目で見て分かる工夫をしている。利用者と一緒に盛り付けをしたり、片付けをしてくださる方もいる。食器等の片づけも手伝ってくださっている	週2日は外部の委託業者に発注し、その他の日は職員が買い物をしてホームで手作りをしている。ホームでは食事を重視しており「一汁五菜」の食事に加え、食器にもこだわり、見て楽しめる配慮をしている。職員も同じテーブルで一緒に食べながら楽しい会話が弾んでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録し確保の確認と意識づけを行っている。状況に応じて水分補給や代替品が提供できるようにしている また量の調整も行い自力摂取できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けを行い、口腔ケアを行っている。就寝前には義歯の管理をさせて頂いている。また数名の方は定期的に訪問歯科により口腔内清掃を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記入しその方の排泄パターンを把握するように努めている。同時に個々の排泄のサインや行動を見てトイレ誘導を行うよう努めている。	排泄が自立している人は2名、その他の人は一部介助や介助が必要であるが、入所時より排泄が改善した人もいる。個々の排泄リズムを把握して声かけや誘導をしているが、手引き歩行や車椅子の人には職員が2名で介助することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常において散歩や体操を行い排便を促している。それでも便秘がみられる場合はセンナ茶、便秘薬の内服にて促している。定期的に排便ができるよう今後も工夫が必要と思われる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	御本人の体調や希望に沿うように努めている。午後から夕方に行っている。入浴中職員と会話したりリラックス、気分転換ができるよう努めている。	週3回を基本とし、昼～夕方に入浴している。全介助2名の他は職員と一対一で浴槽にゆっくり入ってもらい楽しくコミュニケーションをとっている。更衣拒否があり衣服の着脱に困る人には、担当者を変えたりタイミングを見計らい声かけしているが、入ってしまえばOKとのこと。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中御本人の希望を伺い1時間くらい静養されている方もいる。就寝時には本人に合わせて休んで頂いている。就寝時、居室でテレビを観られる方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報はファイリングしており常時確認が出来るようにしている。服薬の追加、変更等あれば連絡ノートに記し体調管理をしている。かかりつけの医師、看護師とも協働を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事や趣味といったレクリエーションを行っている。また、その方の出来る事や好む事を見つけ役割の提供や楽しみごと気分転換の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状況に応じて希望に沿いながら、外出をしている。今は近所がほとんどであるが気候が良くなれば少し遠出考えている。	全員での外出より、利用者の状態でグループ分けをし、3回ぐらいに分けて少人数で外出している。日々の散歩には良く出かけており、正月には最上稲荷へ初詣にも行った。外出が今後の課題でもあり、春には花見を計画しているようだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の預かり金としてかなりしているその方の能力に応じて使っているが認知症の進行に伴い職員が代わりに行うことが多くなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて支援しているが電話をかけたり、かかってきた電話で話をしたりすることが、本人の混乱を招くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不必要なものは置かないように努め圧迫感を感じることをないように努めている季節に応じた飾り付けも心掛けるようにしているまた湿度管理にも注意を払い除菌作用のある薬剤を加湿器で噴霧している。	このホームのコンセプトは「自由に動きやすい空間作り」と聞いている。リビングはシンプルな作りとなっていて展示物も少ないが、3つのテーブルとソファを適度な位置に置き、それぞれが自分の好きな場所で寛げるようになっている。日中は殆どの人がリビングで過ごしていて、清潔な環境が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫したり飾り棚を置くことで共有空間の中での一人一人の居場所をつくることはできている。気の合う方同士が過ごせる空間づくりも工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族に使い慣れた物、馴染みの物等持って来て頂いたりしている。また家具の配置換えなどの工夫したり居室に御家族の写真を置いたり、心地よい空間づくりに努めている。	1階に4室、2階に5室、どの部屋も広めの洋室であり居心地の良い空間になっている。人により宗教も様々で、信仰や生活習慣をそのまま持ち込んで個性的な居室になっている。日中はリビングで過ごす人が多く、居室は休憩用か就寝する場所になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの目印を付けたり、日中過ごすホールは歩行器や車椅子で安全に移動できるよう空間づくりにつとめている。		